

訪れたいまち、住みたいまちに コロナ後へ魅力づくりに全力

8月某日午前7時、快晴。中央アルプス駒ヶ岳ロープウェイのしらび平駅では、始発を待つ家族連れや女性グループの列がありました。華やいだ雰囲気の中で、私や市職員の一団は場違いだったかも

しれません。ドアが開けると一直線に上昇。開けていく光景を眺めていると心は躍ります。抜けるような青空をバックに中央アルプスと対峙する南アルプス。その先には富士山。遠くなるにつれ山肌は緑から青へグラデーションのように変化していきます。

標高2612mの千畳敷駅まで約7分。日本一高い場所にある駅



一面に可憐な花が咲き誇る「中央アルプス千畳敷カール」



市職員と登った快晴の中央アルプス

舎の前に広がるのは、氷河期につくられた「中央アルプス千畳敷カール」です。登山道をゆっくり歩いて尾根へ。足元には黄色や紫など可憐な高山植物が咲いています。厳しい急坂もありますが、夏山なら私のような初心者も登ることが出来ます。この日は宝剣岳の周辺を1時間ほど歩いたところでタイムアップ。以降の視察は職員の皆さんに任せて私はUターン。午前11時のロープウェイで下山、会議へ向かいました。

多彩な宝物がギュッと

長野県駒ヶ根市は、中央アルプスと南アルプスに挟まれた伊那谷の中央部にあります。二つの山脈は市民のよりどころであり、貴重な地域資源となってきました。

令和2年、国定公園に指定され

た中央アルプスは、ロープウェイを使えば市街地から約1時間。午前は3000m級の頂を楽しみ、午後は仕事という暮らしもできます。中心部から車で30分も走れば四隅に着く、コンパクトな市域ならではの魅力です。しかも、山々だけでなく天竜川などの自然、製造業を中心とした産業、水田や季節ごとに実を結ぶ果樹、温泉やホテル、地ビール、古寺、二つの高校と県立看護大学まで、さまざまな宝物がギュッと詰まっています。市長就任前、私は記者として地域づくりを取材してきました。このサイズで、これほど多様な地域資源が集まる地方のまちは多くありません。古里をもっと輝かせたい。その思いが市政に挑む原動力となりました。

もう一つ、大事な宝があります。約40年前に開設された、独立行政法人国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊駒ヶ根訓練所です。途上国で活躍する多くの隊員を育ててきました。隊員の中には



健康づくりの新たな拠点「ゴッチャ!ウェルネス駒ヶ根」



「こまがね大使村まつり」参加者の集合写真

本市を第二の古里と感じ移住された方も少なくありません。隊員経験者らでつくる公益社団法人青年海外協力協会（J O C A）の本部が市内に移転し、つながりは一層深まっています。市民による国際交流団体も多く、

毎年秋には各国大使を招いて交流を楽しむイベントが続いており、気負わない国際交流が根付いています。

未来像は「広場のようなまち」

コロナ禍は、大都市のメリットである人や資源の集積がリスクになることを示しました。首都圏への一極集中を見直す動きも広がろうとしています。こうした流れをうねりに変えるためには地方の努力が不可欠です。個性を競い輝くことが一層重要になって

きました。

本市は、策定中の駒ヶ根市第5次総合計画で未来像を「広場のようなまち」とする方針です。年齢や性別、国籍、障がいなどが隔てる壁を越え、互いを尊重し多彩な活動ができる場。本市には実現を後押しする要素がそろっています。本年度の重点プロジェクトの一つ「生涯活躍のまち×中心市街地活性化」は、具体化の一步です。柱はJ O C Aが本年9月に開いた「ゴッチャ!ウェルネス駒ヶ根」。スポーツクラブと障がい者の職場が同居し、新たな出会いの場となります。市も健康づくり事業の拠点を移し、市街地活性化の鍵となる「リアルな交流」を共に広げていきます。毎年重ねてきた国際交流のイベントも発展させます。大使に専門家を加え、セミナーを開きたいと考えています。市民が築いてきた交流に新たなステージをつくり、発信力を高めることが狙いです。目指すは、でっかくアジア版ダボス会議です。

「学び」をキーワードに

こうした「学び」をキーワードにした取り組みは、さまざまな可

能性があります。市内の二つの高校と始めた「ウミガメプロジェクト」もその一つ。地域課題を考える講座を設け、進学などで離れた後も古里への思いをつなぐきっかけにすることが狙いです。本市は山の中ですが、成長し生まれた浜に戻るウミガメに若者をなぞらえた取り組みです。卒業後、蓄えた知識やノウハウを生かし、課題解決につなげてもらうことを期待しています。また、J I C Aなどと

プロフィール

- ◆ 面積 165・86 km²
- ◆ 人口 3万1691人
- ◆ 世帯数 1万3372世帯

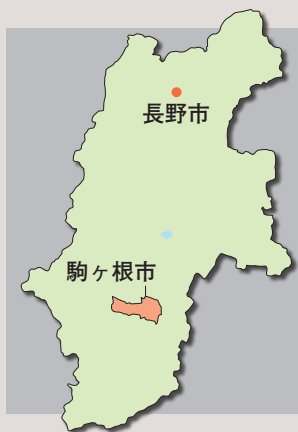
〔将来都市像〕「愛と誇りと活力に満ちた駒ヶ根市」の創造

〔まちの特徴〕二つのアルプスに囲まれた自然豊かな山岳観光と、J I C A訓練所がある国際協力のまち

〔特産品〕ソースかつ丼、信州こま(駒)、



駒ヶ根市長
伊藤祐三



リンゴ、あんぽ柿、イチゴ、地ビール、そば
〔観光〕中央アルプス千畳敷カール、中央アルプス駒ヶ岳ロープウェイ、国指定名勝 光前寺、花桃の里、駒ヶ根シルクミュージアム
〔イベント〕光前寺しだれ桜ライトアップ、信州駒ヶ根ハーフマラソン、みなこいワールドフェスタ、中央アルプス純白の結婚式

連携した研修メニューを作り、自然や農林業体験と組み合わせで提供すれば、これからの観光の柱になると考えます。
リニア中央新幹線の開通後は、長野県駅(仮称)を利用して三大都市圏と1時間前後で結ばれます。建設中の三遠南信自動車道も東海地方とのアクセスを大きく改善します。訪ね、住みたくなるまちになること。コロナ後をにらみ、魅力づくりに全力を挙げていきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「『このまちで良かった』 みんな輝く 未来共創のまち とだ」の実現に向けて

都心へのアクセス抜群
水と緑豊かなオアシス都市

戸田市は、埼玉県南東部に位置し、江戸時代には五街道の一つ「中山道」の要衝「戸田の渡し」が置かれ、古来より交通の要衝として栄えてきたまちです。現在も交



彩湖・道満グリーンパーク

通の利便性が高く、市内には印刷関連産業や食品産業を中心とした製造業や、倉庫や配送センターなどの物流加工工業を中心に、多くの産業が集積し活発に事業活動を行っています。また、平均年齢が41・4歳と県内一若い市であり、人口減少社会にあっても人口増加傾向が続く、活気あふれるまちです。行政の充実度でも高い評価を得ており、「住みよさランキング2020」県内1位、「財政健全度ランキング2020」総合評価県内1位（どちらも東洋経済新報社）を獲得しています。

市内には国内唯一の静水コースとして、1964年の東京オリンピックの舞台となった「戸田ボートコース」や、荒川沿岸の自然豊かなレジャースポット「彩湖・道満グリーンパーク」などがあり、



戸田マラソン in 彩湖

都市にしながら「水と緑」に触れることができます。

毎年8月に開催される「戸田橋花火大会」は、対岸の「いたばし花火大会」と合わせて約1万2000発の花火が荒川河川敷に打ち上がり、約45万人が訪れる本市の一大イベントです。11月には、彩湖周辺の豊かな自然を楽しむ「戸田

マラソン in 彩湖」が開催され、市内外から多くのランナーが集まります。

子どもが健やかに育ち、いきいきと輝けるまち

子育て世帯の多い本市では、子育てを支援するためのさまざまなサービスを提供しています。妊産婦の家事・育児をヘルパーが手伝う「産前産後支援ヘルプサービス」や、専門資格を持った「家庭児童相談員」による相談など、妊娠・出産からその先の子育てまで切れ目のない支援を行っています。そのほかにも、子どもの遊び場や居場所を地域に多く設けており、誰もが安心して子育てができる環境を整えています。

また本市は、教育分野においても先進的な取り組みを数多く実施しています。「戸田市教育政策シンクタンク」を令和元年度から設置し、教育政策について外部の有識者と共同研究をすることで、授業改善や教育政策立案に活用して



戸田橋花火大会

10年間のまちづくりの指針となる「戸田市第5次総合振興計画」がスタート

います。世界で活躍できるスキルを身に付けるため、産官学民との連携によるプログラミング教育や英語教育を推進しています。ほかにも、ICT教育推進のために生徒1人1台端末を実現し、持ち帰りも可能とすることで家庭と学校での学びをつなげ、多様な子ども一人一人に最適な学びを提供しています。

今後も本市では、地域全体で子育てを支えるとともに、これからの社会を見据えた特色ある教育を展開してまいります。

昭和41年に誕生した本市は、本年10月1日に市制施行55周年を迎

えます。4月からは、今後10年間のまちづくりの指針となる「戸田市第5次総合振興計画」がスタートしました。

新型コロナウイルスの感染拡大や自然災害の激甚化、少子高齢化など、私たちはこれまでに経験のない事態に直面しています。このような変化の激しい時代においてこそ、未来に向けたまちづくりの指針を明確にし、誰一人取り残すことなく、誰もがその人らしく安心して住み続けることができるまちづくりが求められます。本計画では、本市が目指す将来都市像を『このまちで良かった』みんな輝く 未来共創のまち とだ』と定めました。SDGsの視点も取り入れ、未来に向かってみんなが知恵と力を出し合い、本市の新しい価値や魅力を共に創り出し、持続可能なまちづくりを目指します。

希望する市民を誰一人取り残さないワクチン接種と生活支援

本市では、新型コロナウイルス感染拡大防止と社会経済活動の両立を図るため、さまざまな対策に取り組んでまいりました。令和2年度は、本市が独自で作成した「新

しい生活様式導入ガイド」の全戸配布や「戸田市コロナ対策セミナー」の動画配信などを行い、感染症に対する正しい知識の啓発を図り、感染症予防対策を進めるとともに、テイクアウト等販売促進補助金や水道・下水道基本料金の免除などの経済活性化・生活支援の対策からなる「戸田市新型コロナウイルス対応緊急支援パッケージ」を、3度にわたり実施しました。本年度は、ワクチン接種を希望する市民を誰

プロフィール

- ◆ 面積 18・19 km²
- ◆ 人口 14万1154人
- ◆ 世帯数 6万7498世帯

〔将来都市像〕『このまちで良かった』みんな輝く 未来共創のまち とだ

〔まちの特徴〕都心へのアクセスが良く、水と緑に恵まれた県内一若いまち
〔特産品〕戸田の渡し（和菓子）、レガッタオールサブレ、TODA HONEY、



戸田市長
菅原文仁



戸田の宿（清酒、焼酎）、戸田自麦酒、戸田ブレンド茶「美女来」
〔観光〕彩湖・道満グリーンパーク、戸田ボートコース、戸田桜つつみ
〔イベント〕戸田橋花火大会、戸田マラソンin彩湖、戸田ふるさと祭り

一人取り残すことなく、1日でも早く接種していただけるよう、市内の接種状況を可視化した「ワクチンメーター」の公開や接種券の迅速な発送、「戸田中央大規模接種センター」の開設など、ワクチン接種を最優先に進めております。

今後も、国、県、医師会との連携や迅速な情報発信を継続し、市民の皆さまと共に、この困難を乗り越えていくことができるよう、引き続き全力で取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

マルチパートナーシップによる誰もが
居場所のある共生社会を目指して都市と自然が調和した
「いわくらしやすい」まち

愛知県の北西部、濃尾平野のほぼ中央に位置する岩倉市は、地形は平坦なかつ面積は10・47km²でコンパクト。古くから岩倉街道を往来する人たちにぎわう交通の要



山車（だし）宵祭り

衝として栄えた、歴史や文化が根付いたまちです。市中央部には名鉄犬山線が通り、コンパクトなまちながら三つの鉄道駅を有しているなど、現在も交通の利便性が高いまちです。

また、市中央



いわくらしやすいロゴ

部に庄内川水系の一級河川である「五条川」が流れ、その両岸を彩る約1400本の桜並木は、「日本のさくら名所100選」に選ばれ、市民の誇りとなっています。毎年3月下旬から4月にかけて開催する「岩倉桜まつり」は、30万人を超える多くの観光客でにぎわいます。

住宅都市として発展してきました。そんな市の魅力を市内外に発信するため、平成28年から「いわくらしやすい」を合言葉に、市民参加型プロジェクトで決定した「いわくらしやすい109の理由」を前面にシティプロモーションに取り組んでいます。

市制50周年の節目の年に
「第5次岩倉市総合計画」
がスタート

本年は、今後10年間のまちづくりの方向性を示す第5次総合計画のスタートの年です。この計画では、これまで培ってきた行政と市民との協働はもとより、企業との連携など、多様な主体が役割を分かち合いながら協働によるまちづくりを進めていく「マルチパートナーシップ」という概念を取り入

れています。

さらに、「役立っていると感じられる場所」「ありのままにいられる場所」という意味を含めた「居場所」、性別や年齢、国籍、文化・習慣など、さまざまな違いを乗り越えて、誰もが尊厳ある個人として尊重され、共に支え合いながら活躍できる社会、自然と調和した環境にやさしい暮らしなど、多様性が尊重され包摂される「共生社会」をキーワードに「マルチパートナーシップによる誰もが居場所のある共生社会をめざす」を基本理念とし、昭和50年の最初の基本構想策定以来、発展・継承させてきた将来都市像「健康で明るい緑の文化都市」の実現を目指しています。

市制50周年、次の50年に
つながる新しい一歩となる
取り組みを

本市は昭和46年に愛知県で29番目の市として誕生し、本年12月1日に50周年の節目を迎えます。



桜並木とのんびり



市制50周年ロゴキャッチフレーズ

この大きな節目を、本市の礎を築いてきた先人たちのたゆまぬ努力や功績に感謝し、誇りに思うとともに、その思いを、未来の岩倉を築いていく次世代につなげていく機会として捉え、50周年記念事業では、市民からの公募により決定した「つながる 育む 花咲く 岩倉」をキャッチフレーズに、市民や市民団体、企業などとの協働により、さまざまな取り組みを実施しています。

特徴的な事業としては、市に実施してほしいこと、自分たちで実施したいことなどを広く募集し、共に夢をかなえていく「市民の夢 協えるプロジェクト」、五条川では、約400年前からこいのぼりの糊落としての作業が行われており、春の風物詩として有名です。この本市の特徴ともいえる「こいのぼり」を市民が折り紙で作って展示数を競う「世界記録に挑戦」、五

条川河畔でドローンを使用し撮影した「市制50周年記念パレードムービー」の作成などがあります。コロナ禍の中で、人を多く集めるイベント型の事業の実施は極力避けつつも、どうすれば安全に実施できるかを検討しながら、将来を担う子どもたちにとって、良き思い出として深く心に残り、輝く未来に夢を膨らませることができ、そんな事業を展開しています。

コンパクトなまちだから こそできる対話を基本と したまちづくり

本市は、面積も狭くコンパクトなまちですが、人と人との距離が近いのも特徴です。その特徴を生かして、これまで市民と行政が一緒になってまちづくりに取り組んできた歴史があります。

本市が長く取り組んできた協働の理念を礎に、市民の皆さんとの対話を基本とし、対話を通じて、常に市民の立場に立って、まちづくりに取り組んでいます。

目指すべき市の姿である「健康で明るい緑の文化都市」を実現するための施策・事業としては、さ

まざまなものがありますが、地域での健康づくり、居場所・生きがいづくりといった健康（健康で幸せな状態を表す造語）政策と、新たな課題として掲げる地域活動の担い手育成など、持続性の高い魅力ある地域活動の環境づくりは、ぜひ積極的に進めていきたいと考えています。市民の皆さまに愛着を持っていただき、住み続けたいと思っただけのような地域づくりに、取り組んでまいりたいと思っています。また、次の世代の

プロフィール

◆ 面積 10・47km²
◆ 人口 4万7932人
◆ 世帯数 2万2168世帯

〔将来都市像〕健康で明るい緑の文化都市

〔まちの特徴〕交通の利便性が高く、五条川を代表する身近な自然と都市が調和した暮らしやすいまち



岩倉市長
久保田桂朗



〔特産品〕名古屋コーチン、カリフラワー、ちっちゃい菜、こいのぼり
〔観光〕五条川の桜並木、岩倉市自然生態園
〔イベント〕岩倉桜まつり、いわくら夏まつり市民盆おどり、いわくら市民ふれ愛まつり、冬の鍋フェスinいわくら

ために温室効果ガス削減につながる地球温暖化防止対策やSDGsにも積極的に取り組み、効果的な政策を展開していきます。最後に、新型コロナウイルス感染症は、依然として猛威を振るい、収束の見通しがつかない状況ではありますが、感染予防策やさまざまな支援策を講じながら、ウィズコロナ、アフターコロナ時代を見据えて、本市の持続的な発展を目指して取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

きらめくおおず
みんな輝く肱川流域のまち人・自然・文化が
きらめくまち

大洲市は、四国の北西部に位置し、県都松山市の南西約50kmの距離にある人口約4万1000人のまちです。中心部を県内最大の一級河川「肱川」が流れ、瀬戸内海へと注いでいます。肱川は河口が狭く、河川勾配が緩やかなため降



臥龍山荘（臥龍院と庭園）

雨時に水が捌けにくく、さらに支川が474本あり大洲盆地に洪水が集まる地形のため、治水が難しい河川です。

平成30年7月

豪雨による甚大な被害を受け、現在は再度災害防止に

向けて、肱川緊急治水対策により築堤や堤防のかさ上げなどの河川改修工事が進められています。

一方で、藩政時代から肱川は肥沃な土壌と水利によって、農業を中心とした産業、食文化、観光など、さまざまな分野で人々に多くの恵みをもたらしてきました。

肱川では夏の風物詩である「うかい」が、秋には河原を座敷にして、里芋・鶏肉・コンニャク・油揚げなどが入った醤油ベースの少し甘めの鍋を囲む「いもたき」が行われ、多くの人がその風情を楽しんでいます。現在、山形県中山町、島根県津和野町と大洲市の3市町で「日本三大芋煮」としてPRに取り組んでいます。

また、令和3年6月に、「臥龍山荘庭園」が、庭園の重要文化財といわれる国の名勝に指定されるこ

とが決まりました。

臥龍山荘庭園は、明治後期に貿易商の河内寅次郎氏が造営した庭園で、平成28年に臥龍院や不老庵などの建物が国の重要文化財に指定されている、肱川流域随一の景勝地です。この庭園は、肱川を含む周辺の景観を大きく取り込んで空間を構成している点が極めて独創的であり、芸術上および観賞上の価値、日本庭園史における学術上の価値も高く評価されています。

ぜひ、多くの皆さまに臥龍山荘庭園にお越しいただき、重要文化財の臥龍院や不老庵などの名建築と合わせて、庭園や肱川の景観の魅力を感じていただければ幸いです。

歴史的資源を活用した
官民連携事業

本市には、一級河川である肱川



町家・古民家活用事例

沿いに数多くの文化財があり、人々の営みによって育まれてきた市街地には、いわゆる「歴史的風致」が残っています。

しかしながら、近年、城下町の町並みは、空き家が増え、老朽化したものは解体されて市街地における更地化が進むようになりま

した。

そこで、町並みを形成する町家や古民家を活用し、良好な景観の維持を図っていくために、地元金融機関や宿泊事業者などと連携し、公的資金と民間資金を活用した官民連携事業を実施することに



木造復元天守に泊まる日本初の体験「大洲城」



NIPPONIA HOTEL 大洲 城下町

しました。

この歴史的資源を活用した官民連携事業は、経済産業省の「地域未来投資促進法」の事業スキームで実施しています。そのため、「歴史的資源を保全する」という公共性の高い部分のみならず、それらを活用して、民間事業者が観光ビジネスで成果を上げるまでのマネジメントに取り組むことにしています。

官民連携の取り

組みの成果として、令和2年7月には、空き家となっていた町家や古民家を改修して、分散型の宿泊施設として活用した「NIPPONIA HOTEL」大洲城下町」がオープンしました。このホテルは、古民家の風合いや、1棟貸しでゆったりと過ごせる空間、地域の食材を利用した食事が人気で、コロナ禍ではありますが、順調にお客さまにご利用いただいています。

そして、城下町の町並みだけでなく、文化財も官民連携により活用することとしました。

大洲城での城主体験、いわゆる「大洲城キャッスルステイ」は、観光庁でも取り上げていただいている「城泊」事業として、大洲城天守に泊まることのできる事業です。1泊100万円の高額プランですが、単に泊まるだけでなく、一流のオペレーションにより、プライスレスの城主体験を提供しています。

文化財や観光施設を単に一般公開するだけでなく、観光時間外となる夕方から翌朝にかけての時間を有効に活用して、付加価値の高い歴史体験を官民連携で創出し、さらなる地域経済への波及効果を期待しています。

魅力あふれる 大洲市を目指して

新型コロナウイルス感染症の拡大を契機にテレワークが普及し、地方移住への関心が高まりをみせています。インターネット環境の整備やSNSの普及によって、地方でもビジネスができる時代となりました。コロナ禍の影響によるピンチをチャンスと捉え、本市の歴史、伝

統や文化、自然などの魅力を全国にPRすることで「大洲市のファン」を増やし、ワーケーションや移住者の受け入れ体制の整備を行い、安心して定住でき、移住先や訪問先として選んでいただける、さらに「次の世代においても住み続けたい」と思っていただけの地域を目指して、市民と共に、持続可能な魅力あふれる大洲市を創造していきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 432・12 km²
- ◆ 人口 4万1480人
- ◆ 世帯数 1万9748世帯

〔将来都市像〕きらめくおおずみんな輝く肱川流域のまち

〔まちの特徴〕肱川、そしてその河畔に建つ大洲城を中心として発展してきた歴史と文化の城下町

〔市町村合併〕平成17年1月1日 大洲市、長浜町、肱川町、河辺村が合併



大洲市長
二宮隆久



〔イベント〕富士山つつじまつり、大洲肱川のうかい、大洲川まつり花火大会、カヌーツーリング駅伝大会、いもたき、大洲まつり

〔特産品〕栗、乾いたけ、里芋、フグ、ハモ、アマゴ、おおず繭、米、白菜、スイカ、キウイ、下駄

〔観光〕大洲城、臥龍山荘、少彦名神社参籠殿、おはなはん通り、おおず赤煉瓦館、長浜大橋

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。